

ねらい

幼稚園の保育を見て、幼児期の子どもの姿を捉え、架け橋期の育ち、つながりを考える。

ポイント

- ・ 事前協議では、保小の教員も参加し、今までの遊びの経過やねらい、教師の願いなどを共有した。また、小学校での運動遊びへの関連についても話し合った。
- ・ 小学校は、午後の授業をカットし、小学校全教員が幼稚園の保育を見る体制を整えた。
- ・ 協議が活発になるように、事前に各グループで話し合う視点を事前に知らせておき、付箋を活用して意見を出し合い、まとめるように工夫した。

実践内容

5歳児のしっぽ取りの活動を幼保小の教員で参観し、その後グループに分かれて研究協議した。協議では、「主体性」と「つながり」の視点や、“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”をもとに話し合った。

遊びが楽しいから、負けてもやりたいという思いが出てくる。繰り返すからこそ、面白さを感じる。本気になるからこそ、負けて悔しいという感情が湧いてくる。とことん遊ぶ大切さを感じた。

自立心

道徳性・規範意識の芽生え

チームの仲間を応援したり、掛け声をかけたり、作戦を立てたりしていた。

協同性

困った時に、その都度、子どもたちとルールを決めていくからこそ、自分たちのルールになっているのだと思う。

道徳性・規範意識の芽生え

A児のめあては、チームの勝利ではなく、自分がしっぽを取ることで、一人ずつめあてが違うのだとわかった。

自立心

しっぽの数を数えやすくする視覚的援助や、タイマーなどで時間の感覚がわかりやすい環境だった。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

十分な運動量があった。しっぽ取りの活動で、取る・逃げる・よけるなどのいろいろな体の動きを経験していた。

健康な心と体

順番を決める名前を書いたボードがあって相談しやすかった。

言葉による伝え合い

思考力の芽生え

教員の学び

- ・ 主体的に遊ぶ中でこそ、学びがあることを実感した。保育も授業も、子どもが生き生きと活動できるように、創意工夫することが大切だと学んだ。
- ・ 自分たちで考えて、自己決定できるような場面が多くあった。授業の中でも、自己決定できる機会を多くつくっていきたい。
- ・ それぞれに合わせたねらいやそれぞれの学びがあることがより具体的に実感できた。

主体性

つながり

成果と課題

- ・ 幼保小の教員が同じ場面を見ることで、子ども理解を深め、小学校教育とのつながりや幼児教育の遊びを通した学びの重要性について、共通理解することができた。
- ・ 幼保小の教員で合同に研修をするための日程や時間を調整することが難しいが、今後もこのような研修を定期的に行い、相互理解を深めたい。